

お知らせ

平成30年6月1日

同時資料提供先

合同庁舎記者クラブ、鳥取県政記者会、島根県政記者会、
 岡山県政記者クラブ、広島県政記者クラブ、山口県政記者クラブ、
 山口県政記者会、山口県政滝町クラブ、中国地方建設記者クラブ

平成29年度 水生生物調査の実施結果について

～小学生を中心に80団体が参加！

中国地方の一級河川の水質は概ね良好な状態でした～

<平成29年度実施状況>

中国地方の一級河川の97地点において、
 6月から10月にかけて小学生を中心に80団体、
 延べ2,631名の参加を得て実施しました。



水生生物調査の状況

<平成29年度調査結果>

調査地点の水質を、階級Ⅰ（きれいな水）～階級Ⅳ（とてもきたない水）の4つに分けて取りまとめた結果、階級Ⅰ（きれいな水）と階級Ⅱ（ややきれいな水）に判定された地点が全体の96%でした。



<水生生物調査とは？>

川底にどのような生物が住んでいるかを調べることにより、河川の比較的長い期間の水質の状態を簡易的に判定する住民参加型の調査です。誰にでも簡単に水質の判定ができるので、昭和59年度から毎年、小学生を中心に中学生、高校生等、多くの方々の参加を得て実施しています。

この水生生物調査は、河川と親しみながら調査することから、河川愛護や水質浄化等への関心を高めてもらうことも目的としています。

平成30年度も夏休みを中心に本調査を実施しますので、是非ご参加ください。

国土交通省 中国地方整備局

○問い合わせ先			
国土交通省中国地方整備局			
電話番号 (082) 221-9231 (代表)			
(担当) 河川部	流域・水防調整官	しもやま しげる 下山 茂	(内線3518)
(担当) 河川部	建設専門官	ふくだ けいじ 福田 敬司	(内線3758)
(広報担当窓口)	総務部 広報広聴対策官	いわした やすひさ 岩下 恭久	(内線2117)
	企画部 環境調整官	いのうえ かずひさ 井上 和久	(内線3114)

中国地方整備局 平成30年度 水生生物調査の実施について

平成30年度も引き続き、水生生物調査を実施します。詳細については中国地方整備局の窓口までお問い合わせください。

(お問い合わせ先)

- ・ 中国地方整備局の窓口（一級河川 国管理区間に関するもの）

事務所名	HPのURL	担当水系名	電話番号	担当部課名
鳥取河川国道事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/tottori/	千代川	0857-22-8435	河川管理課
倉吉河川国道事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/kurayoshi/	天神川	0858-26-6221	河川管理課
日野川河川事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa/	日野川	0859-27-5484	調査設計課
出雲河川事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/	斐伊川	0853-21-1850	河川環境室
浜田河川国道事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/hamada/	江の川(島根県)	0855-22-2480	河川管理課
		高津川		
岡山河川事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/okakawa/	吉井川	086-223-5101	調査設計課
		旭川		
		高梁川		
福山河川国道事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/fukuyama/	芦田川	084-923-2620	調査設計第一課
三次河川国道事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/miyoshi/	江の川(広島県)	0824-63-4121	河川管理課
太田川河川事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/ootagawa/	太田川	082-221-2436	管理第一課
		小瀬川		
山口河川国道事務所	http://www.cgr.mlit.go.jp/yamaguchi/	佐波川	0835-22-1890	河川管理課
中国地方整備局	http://www.cgr.mlit.go.jp	13水系	082-221-9231	河川部 水災害予報センター

平成29年度

水生生物による水質の簡易調査の実施結果

中国地方整備局

調査状況 - 1

千代川水系 千代川 さぬき 佐貫地点 (鳥取県)



天神川水系 三徳川 おおぜみずべのがっこう 大瀬水辺の楽校地点 (鳥取県)



日野川水系 日野川 くずもぜきかりゅう 車尾堰下流地点 (鳥取県)



斐伊川水系 神戸川 まきおおはし 馬木大橋地点 (島根県)



高津川水系 高津川 いいだ 飯田地点 (島根県)



江の川水系 やつぎみずべのがっこう 八次水辺の楽校地点 (広島県)



調査状況 - 2

吉井川水系 金剛川 ^{みやばし} 宮橋地点 (岡山県)



旭川水系 旭川 ^{しんおおはらばし} 新大原橋地点 (岡山県)



高梁川水系 高梁川 ^{たたいげき} 湛井堰地点 (岡山県)



芦田川水系 芦田川 ^{やまてばし} 山手橋地点 (広島県)

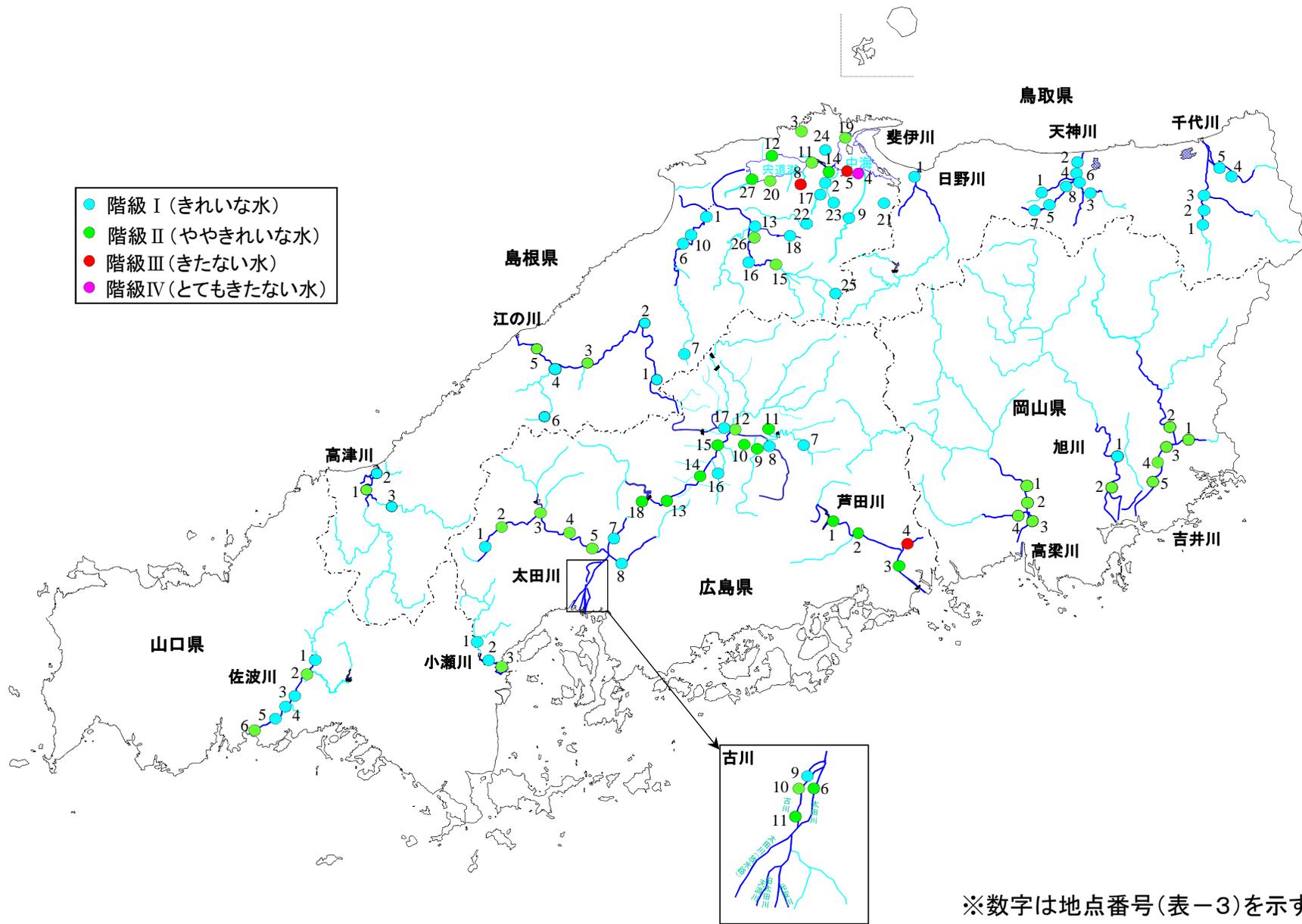


小瀬川水系 小瀬川 ^{おとげばし} 乙瀬橋地点 (広島県)



佐波川水系 佐波川 ^{かみみぎた} 上右田地点 (山口県)





※数字は地点番号(表-3)を示す。

調査地点概要図(中国地方整備局)

1. 調査の目的

川底にどのような生物が住んでいるかを調べることにより、河川の比較的長い期間の水質の状態を知ることができます。

そのため、国土交通省と環境省では、それぞれ昭和59年度から「水生生物による水質の簡易調査」（以下「水生生物調査」という。）をはじめています。

水生生物調査は、誰にでも簡単に水質の判定ができるので、小学生を中心に、中学生、高校生等、多くの方々に参加していただき、私達の身近な存在である河川に対して、河川愛護や水質浄化等への関心を高めてもらうことも目的として実施しています。

2. 参加者数と調査地点数

中国地方の一級河川の97地点において、小学生を中心に、80団体、延べ2,631名の参加を得て実施

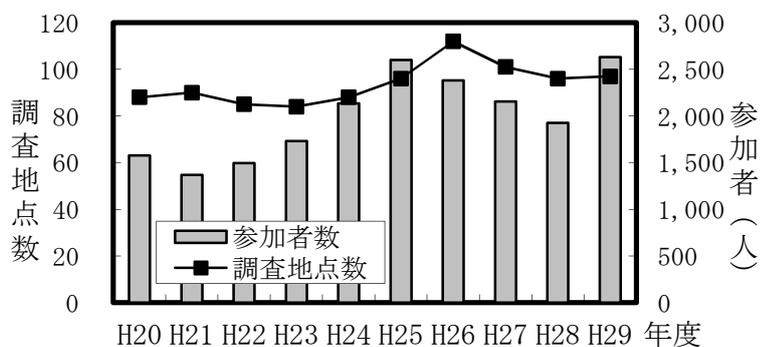


図-1 参加者数と調査地点数

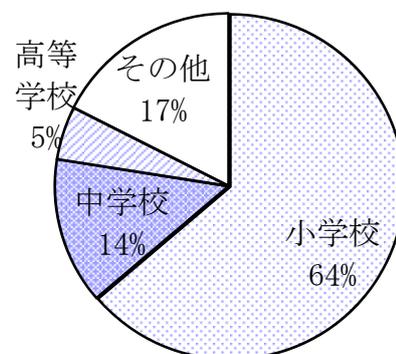


図-2 平成29年度 調査参加団体構成比

平成29年度の調査は、中国地方の一級河川の97地点において、6月から10月にかけて、80団体、延べ2,631人の参加を得て実施しました（P. 7 表-2 参照）。

多くの子供達に参加していただいたことで、大変貴重なデータを得ることができました。子供達にとっても、水に親しみながら調査をしたことで”きれいな川”に対する具体的なイメージを持っていただく機会になったと思います。

3. 調査の方法

水生生物調査は、国土交通省水管理・国土保全局編「川の生きものを調べよう～水生生物による水質判定～」に基づいて、川底に生息する水生生物を採取し、表-1に示す『水のきれいさ』の指標となっている生物の種類数と個体数により、川の水質状況を判定するものです。

表-1 水のきれいさの程度（階級）とその指標となる生物

階級Ⅰ（きれいな水）	階級Ⅱ（ややきれいな水）
ナミウズムシ ヒラタカゲロウ類 ヘビトンボ ヤマトビケラ類 アミカ類	サワガニ カワゲラ類 ナガレトビケラ類 ブユ類 ヨコエビ類
カワニナ類 コガタシマトビケラ類 ヒラタドロムシ類 ○ヤマトシジミ	コオニヤンマ オオシマトビケラ ゲンジボタル ○イシマキガイ
階級Ⅲ（きたない水）	階級Ⅳ（とてもきたない水）
タニシ類 ミズムシ ○ニホンドロソコエビ	シマイシビル ミズカマキリ ○イソコツブムシ類
サカマキガイ アメリカザリガニ チョウバエ類	エラミミズ ユスリカ類

注) ○は海水の少し混ざっている汽水域の生物

<階級の判定方法>

- ・調査地点毎に、見つかった個体数の多かった指標生物2種類（ただし、3種類の指標生物がほぼ同じ個体数であった場合は、最大3種類）に2点、それ以外の指標生物に1点をつける。
 - ・各階級毎に各指標生物の点数を合計する。
 - ・合計点数のもっとも多い階級をその地点の水質階級と判定する。
 - ・ただし、複数の階級が同点の場合は、水質の良い階級をその地点の階級とする。
- 例えば、階級Ⅰと階級Ⅱが同点の場合は階級Ⅰとする。

4. 調査結果概要

階級 I と階級 II に判定された地点が全体の96%

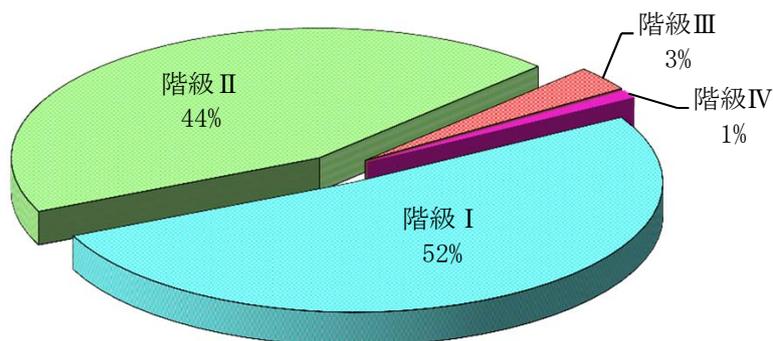


図-3 平成29年度 水質階級構成比

水生生物調査97地点の判定結果は、階級 I（きれいな水）が50地点、階級 II（ややきれいな水）が43地点、階級 III（きたない水）が3地点、階級 IV（とてもきたない水）が1地点でした。

階級 I（きれいな水）と階級 II（ややきれいな水）に判定された地点が全体の96%であり、中国地方の一級河川の水質は概ね良好な状態でした。

今後も、水質の良好な状態を保つため、生活排水などが河川の水質に及ぼす影響について、関心をもっていただきたいと思います。

中国地方の一級河川の水質は、良好な状態を維持

図-4は、過去10年間の水質階級の推移を表したのですが、階級 I（きれいな水）と階級 II（ややきれいな水）の比率は93~99%であり、中国地方の一級河川の水質は、継続的に概ね良好な状態を維持しています。

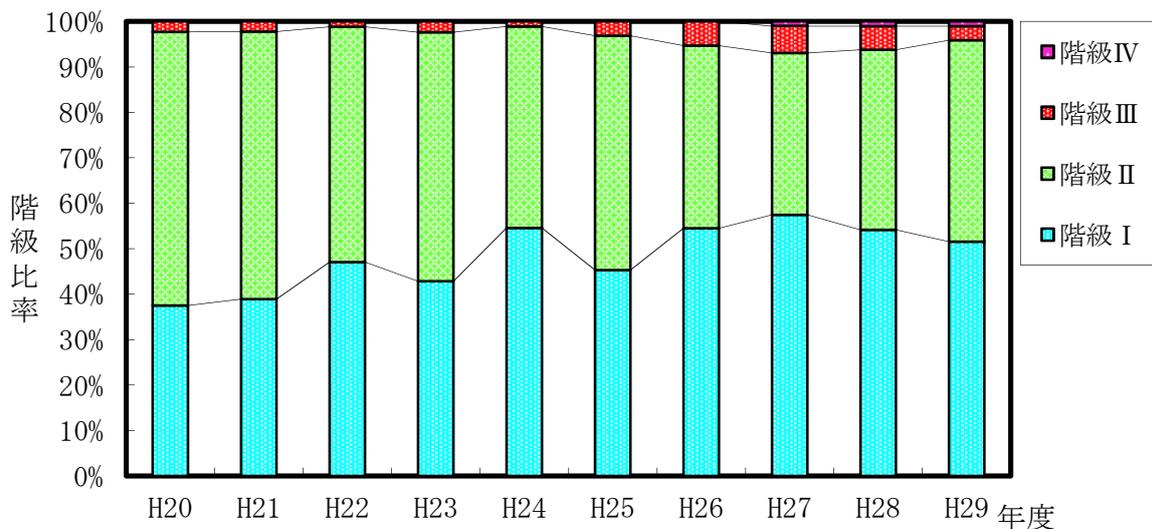


図-4 判定水質階級比率の推移

5. 河川別参加者数、参加団体等集計

表－2 水生生物調査 「平成29年度実施結果」

(階級Ⅰ (きれいな水) 階級Ⅱ (ややきれいな水) 階級Ⅲ (きたない水) 階級Ⅳ (とてもきたない水))

県名	水系名	調査 地点数 (地点)	参加 者数 (人)	参加 団体数 (団体)	判定階級 (地点)				
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	未評価
鳥取県	千代川	5	164	5	5	0	0	0	0
	天神川	8	280	11	8	0	0	0	0
	日野川	1	23	1	1	0	0	0	0
島根県	斐伊川	27	1113	23	15	9	2	1	0
	高津川	3	22	3	2	1	0	0	0
	江の川下流	6	136	6	4	2	0	0	0
岡山県	吉井川	5	47	1	0	5	0	0	0
	旭川	2	25	1	1	1	0	0	0
	高梁川	4	0	0	0	4	0	0	0
広島県	江の川上流	12	370	12	4	8	0	0	0
	芦田川	4	32	3	0	3	1	0	0
	太田川	11	96	6	4	7	0	0	0
広島県・山口県	小瀬川	3	118	3	2	1	0	0	0
山口県	佐波川	6	205	5	4	2	0	0	0
合計		97	2,631	80	50 52%	43 44%	3 3%	1 1%	0
前年 (平成28年度)		97	1,925	69	52 54%	38 40%	5 5%	1 1%	1

※合計の％は未評価を除く地点の評価です。

【参加団体内訳】		
小学校	51団体	2,110人
中学校	11団体	164人
高等学校	4団体	73人
その他	14団体	284人

全国水生生物調査の概要

【参考1】

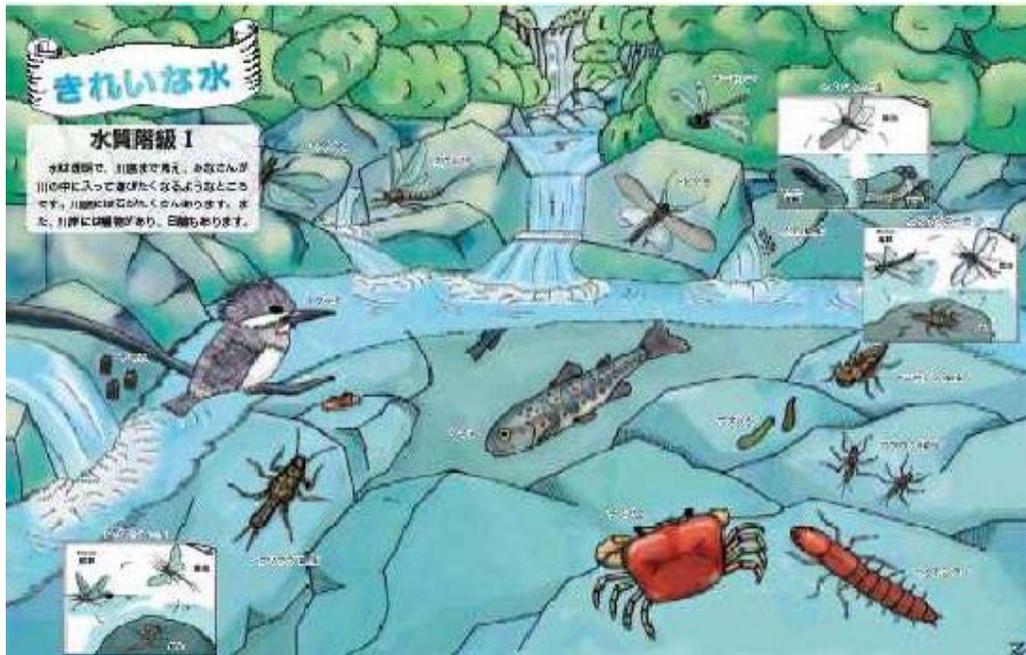
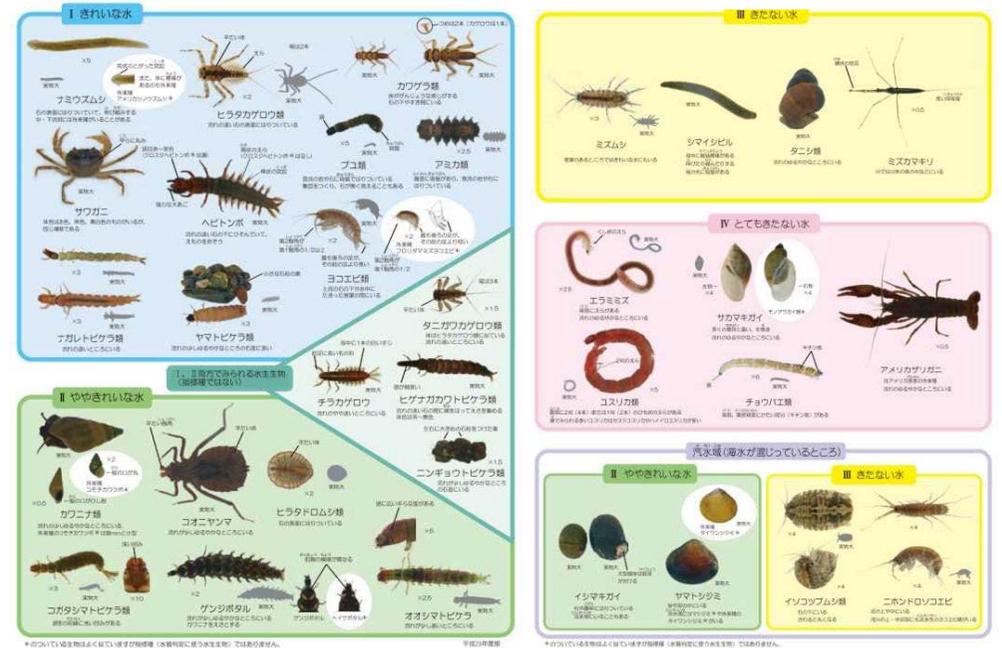
川の中には様々な生きものが住んでいます、特に川底に住んでいる生きものは、過去から調査時点までの長い時間の水質の状況を反映したものであり、どのような生きものが住んでいるかを調べることにより、その地点の水質の程度を知ることができます。この調査は、適切な指導のもと、小学生、中学生、高校生、一般の人々のだれもが簡単にできるようになっています。

調査方法

本調査では、河川に生息する水生生物のうち、①全国各地に広く分布し、②分類が容易で、③水質に係る指標性が高い、29種を指標生物としています。

河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点毎に、I (きれいな水)、II (ややきれいな水)、III (きたない水)、IV (とてもきたない水) の4階級で水質の状況を判定しています。

水質階級と指標生物



きれいな水 (I) の指標生物		ややきれいな水 (II) の指標生物	
ナミウズムシ	サワガニ	カワナナ類	コオニヤンマ
ヒラタカゲロウ類	カワガラ類	コガタシマトビケラ類	オオシマトビケラ
ヘビトンボ	ナガレトビケラ類	ヒラタドROMシ類	ゲンジボタル
ヤマトビケラ類	ブユ類	○ ヤマトシジミ	○ イシマキガイ
アマカ類	ヨコエビ類		
きたない水 (III) の指標生物		とてもきたない水 (IV) の指標生物	
タニシ類	シマイシビル	サカマキガイ	エラミミズ
ミズムシ	ミズカマキリ	アメリカザリガニ	ユスリカ類
○ ニホンドロソコエビ	○ イソコツブムシ類	チョウバエ類	
I, II両方で見られる水生生物 (指標生物ではない)			
ヒゲナガカワトビケラ類	ニンギョウトビケラ類		
タニガワカゲロウ類	チラカゲロウ		

注) ○は海水の少し混ざっている汽水域の生物